

事業名称	砺波の民具の活用事業			
実行委員会	砺波の民具の活用実行委員会			
中 核 館	砺波市立砺波郷土資料館			
	住所	〒939-1382 富山県砺波市花園町 1-78		
	TEL	0763-32-2339	FAX	0763-32-2436
	ホームページ	https://www.city.tonami.toyama.jp/section/1298887642.html		
構成団体	砺波散居村ミュージアム、砺波市般若地区自治振興会、庄川水資料館、ボランティアグループ えんなか会、砺波市立庄東小学校、砺波市文化会館			
事業開始時点 の課題分析	生活、生産用具に馴染みが薄く、用具の使い方が分からない青年、壮年層の見学者が少なく、地域の生活文化や米作り文化等が次世代に十分に継承されないことが危惧される。また、こうした文化の継承の担い手と発信の起点となる組織や団体も育ちにくい。			
事業目的	①民具の見学、民具に親しむ活動、地域の文化に触れる活動を通して、民具への関心、先人の知恵や努力、砺波地方の生活文化とそれを育んだ郷土への理解を深める。 ②本博物館の事業への理解と支援を行うボランティア集団を育成する。			
事業概要	学校等と連携し、昔の農作業体験やふるさと学習・郷土学習を通して次世代の地域文化の担い手を育成する。また季節に応じた民具の説明会や民具に係わるワークショップを通して様々な年代に地域の文化や魅力を伝える。このため資料の解説に写真やイラストをつけて分かりやすく表示したり、動画で紹介したりして民具を理解し、楽しむ機会を提供する。またこうした活動を支える民具ボランティアの育成を図る。			
実施項目 ・ 実施体系	(1) 学校・公民館と連携した地域文化の担い手の育成事業 ①昔ながらの農作業体験、小学生向け郷土学習、ふるさと学習の企画準備と事前学習の実施 ②昔ながらの農作業体験事業、郷土学習、ふるさと学習の実施 ③昔ながらの農作業体験事業、郷土学習、ふるさと学習の評価と成果発表 (2) 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施 ①季節に応じた民具の展示・説明の企画と定期的な民具説明会の開催 ②民具の使い方のワークショップと体験会の企画 「洗い張り」等 ③公民館等連携「暮らしと民具」の講演会の企画と講演会のHPによる公開 (3) 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動 ①情報ツールを利用した展示の紹介 動画記録の蓄積、展示の工夫 ②まちづくりの中核となるボランティアの育成 ボランティア養成講座、古文書を読む会等 (4) 砺波の民具の使用と変遷に係る背景調査・他組織との連携事業			
実施後の 成果・効果等	1 民具の見学、民具に親しむ活動を通して 学校や公民館と連携して農業体験やふるさと学習、郷土学習を進める中で、田植えや除草、収穫など様々な農具やあかり、暖房、洗濯などの器具に触れたり、実際に使ったりする体験を行った。その体験を基に、機械や器具が整ってない時代においても様々な工夫をして暮らしを豊かにしていたことを実感した。（児童生徒の感想、教員・学校の評価） 2 民具の使い方や移り変わりを調べることを通して 民具を使った体験や縄ない体験、道具の手入れなどのワークショップを通して、使う、作る、試す体験や手入れなど実際の作業を体験することができた。体験することにより、昔の道具には様々な工夫が施され、機能性や温かさがあることに気づいた。気づきが参加者間で共有されることで、さらに関心が高まり、地域文化の理解につながった。（親子活動体験の感想、関係者評価、インターネットの感想欄） 3 民具ボランティアの活動の活性化について 民具ボランティアの養成の機会として、見学者や観光客の目線で自館の展示を見直すことで、民具展示室の展示や解説の改善への意欲が高まった。（参加者の評価、外部評価）			

【事業実績】

中核館である砺波郷土資料館は、構成団体の散居村ミュージアム等と連携し、重要有形民俗文化財の民具等を生かして民具への関心をはぐむとともに、地域文化への理解を深まるよう事業を実施した。

1 (1) 学校、公民館等と連携した地域文化の担い手育成事業

① 昔の農作業体験と米作り体験発表会（小学校5年）

昔ながらの農業体験について、今年度は5小学校・地区公民館から依頼を受け、作業の説明や農具の貸出等行った。5月の田植えに始まり(a、b)7月らち体験(除草)、9月稲刈り・脱穀(c)10月体験発表会(d)まで地区公民館と協働しながら米作り体験の企画・実施を行った。昔の農具を使った作業を体験して、一つ一つ体を使ってすることの大変さや米一粒一粒を大事にする米作りの苦労を知ることができた。また今の農機具を使った作業も見学し、作業は変わっても米が大切に作られていることや昔の農具の仕組みが今の農業機械に活かされていることに気づいて体験発表で語っていた。



② 郷土学習、ふるさと学習の見学と体験（小学校6年、小学校3年）

郷土学習やふるさと学習では、地域の産業や昔の暮らしについて学び、体験する活動を企画・実施した。今年は郷土学習に7校、ふるさと学習に14校の参加があった。郷土学習では大正時代半ばに農具が大きく進歩したことや砺波で発明された螺旋水車が全国で使用されたことを学んで、様々な農具の発達や肥料や農薬を使用するようになったことから農業の仕方いろいろ変わってきたことを実感した。また、ふるさと学習にはどの展示館で見学しても同じプログラムで充実した見学や体験活動ができるよう資料や展示の準備を行った。

a 唐箕体験



b わらじ体験



c ころかし体験



d 脱穀体験



説明パネル

昔のあかり



火入れアイロン



使い方や仕組みを簡単に示したパネル

見学校からの評価と感想

郷土学習の評価

1、見学、体験活動の内容について（見学7校）

○ よかった。 6/7

見学する昔の農具や生活用品と、実際に触れて使う、体験する道具がセットになっていて大変よかった。

(衣、食、住から重要なものが予め選んであり効率的だった。)

教室で学習した物を実際に見ることができて満足していた。

(体験したり、実際に使ったりできるものが整っていてよかった。)

体験の時間も十分にとってあった。

○ おおむねよかった 1/7 (あかりや文房具の数を多くする)

2、補助資料や解説、会場設定について（見学7校）

○ よかった。 6/7

ものが順序よく展示してあって見やすい。子供の目の高さでよい。体験活動がとても工夫されていて、子供たちがよく話を聞いていた。

(グループで相談して体験したり、役割を代わって体験できて良い。)

○ おおむねよかった 1/7

(体験活動の場所を広くする。学校にも貸し出すなどしてほしい)

民具の見学、民具に親しむ活動を通して

農業体験やふるさと学習、郷土学習で、田植えや除草、収穫の農具を使ったり、あかり、暖房、洗濯などの器具に触れたり、実際に体験したりする機会を多くした。こうした体験を基に、機械や器具が整ってない時代においても様々な工夫をして暮らしを豊かにしていたことを実感した。

(児童生徒の感想、教員・学校の評価)

① 季節の展示と民具体験

季節の展示は、季節に応じた民具を選んで展示し、民具解説や体験活動を行った。春先に使う農具、田植え衣装と道具、収穫の農具、一年の農作業を終える「庭じまい」など、米作りを中心とした一年の暮らしを紹介し、先人の暮らしや工夫を伝えた。（見学者は9月以後の集計 358名）



「庭じまい」選別の道具(12月)



洗たくの歴史 (7月)

② 民具に触れる体験と民具体験の配信



魚を捕えるブツタイ作り



菓子の型を使ったクッキー



わら製作体験「正月飾りを作る」

様々な世代の参観者に民具への関心を高めるために、夏期や冬期の学校休業中に民具を使ったり、その民具を参考に自作の道具を作ったりする体験活動を企画した。親子参加としたことで若い父母にも好評だった。また、昔の道具の使い方を再現し、これをweb上で配信した。季節に応じた昔の暮らしや手入れの一端を紹介した。

夏の体験会では着物の洗い板張りと伸子張りを再現した。これは地元新聞で取り上げられ、「昭和30年代半ばに祖母がしていて、自分も手伝っていた」と思い出を語った方たちもいた。

〔動画 <https://1073shoso.jp/www/movie/detail.jsp?id=19870>〕



伸子張りの動画より

③ 特別展に関連させた講演会と「公民館連携講演会」の実施

「砺波の民具収集」を提唱し、その収集に当たった民俗学者佐伯安一氏の特別展で、講演会とこれに関連した連携講演会を市内の6公民館で実施した。

〔公民館連携講演会のテーマ〕

民具と方言
犁の移り変わり
砺波地方の獅子舞の伝播
県内の獅子舞あれこれ 他



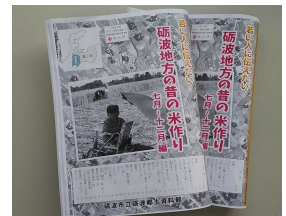
特別展「佐伯安一の軌跡」

〔講演会動画 <https://sankyoson.tonamino.info/20211030ishigaki.mp4>〕

10月18日～11月23日 入館者462人

④ 図録「若い人に伝えたい砺波地方の昔の米作り」7月～12月

江戸時代から昭和40年代にかけて農具の発達により米作り作業がどう変わってきたかを記録した。後半は防除、稲刈り、乾燥、脱穀、臼摺りなど農作業について、古い資料や日課帳、実際に体験した古老の聞き取りなどからまとめている。またどろ臼がどのように使われたかなども具体的に記録し、若い世代にも分かる記録にした。



民具の使い方や移り変わりを調べることを通して

民具を使った体験や道具の手入れなどのワークショップを通して、使う、作る、試すや手入れなどの作業を体験することができた。体験することにより、昔の道具には様々な工夫が施され、機能性や温かさがあることに気づいた。気づきが参加者間で共有されることで、さらに関心が高まり、地域文化の理解につながった。

（親子活動体験の感想、インターネットや関係者の感想）

1 (3) 他分野との連携、融合による活動

民具ボランティア養成講座 (12月の季節の展示「庭じまい展」後に実施)

観光ボランティアや地域の高齢者グループを中心に民具の手入れや県外からの来訪者への案内等について研修、協議した。「母や祖母たちが話していたことが砺波の暮らしであり、それを伝えたい」「観光客に共感してもらえるのはこの土地の暮らし」等の意見が出た。また、個人で体験や着物の手入れの会などに出ることに抵抗があるが、公民館単位やグループで参加するのであれば参加しやすい。多くの方が参加しやすい活動を考えるなど企画に関する意見も多数出された。



民具ボランティアの活動の活性化について

見学者や観光客の目線で見直することで、民具展示室の展示や解説の改善への意欲が高まった。取り組みやすくするためにグループで参加するなど参加方法等についても積極的であった。（参加者の評価、外部評価）